

移行へ支援

可決

臨時会



島根リハビリテーション学院外観

大学化への町の2つの支援策



高齢者福祉研修施設を
無償譲渡

隣接する施設を
学院の資産に

寄付金

5,000万円

必要経費の半分を支援

教員室、教育機器の
整備など

第3回臨時会



平成29年第3回臨時会が11月15日に開かれ、一般会計補正予算1億100万円や財産の処分など、4議案を原案の通り全会一致で可決しました。今回表明された島根リハビリテーション学院の専門職大学移行への支援には、今後の計画などについて活発な議論がありました。

魅力化を図る大学化を決断

近年、島根リハビリテーション学院は少子化や大学志向により、定員を割り込む状況が続いています。この状況を打破するため、魅力化、差別化を図る専門職大学への移行をめざすことが明らかにされました。

平成31年4月開学を目指す

町の説明では、高度な能力を有する実務家教員による実践教育と研究により、問題解決能力を有する人材を育成することを目的とし、学生定員も増やして来年春の開学を目指す、としています。

議会としてもこの奥出雲町で、未来の担い手が高度な教育を受け力を磨くことに賛同し、支援を認めるものです。今後この構想が順調に進むのか、狙い通りの効果が出てくるのか、注視していきます。